



宇都宮大学

UTSUNOMIYA UNIVERSITY

UU ユー・ユウ・ノウ now



OB. OG. INTERVIEW

世界は変えられる

特定非営利活動法人
国連UNHCR協会

小野由香子

CONTENTS

- 1 OB. OG. INTERVIEW
- 4 特集 JUST (宇大就活応援団)
- 6 地域貢献REPORT
- 8 Welcome to 授業
- 9 Welcome to 研究室 & ゼミ
- 10 研究keyword / 私の学生時代
- 12 UU News / 宇大検定
- 14 INFORMATION
- 15 学生アンケート 宇大生は今!
- 16 サークル紹介 / 編集後記

世界は変えられる

国連の難民支援機関「UNHCR」（国連難民高等弁務官事務所）の公式支援窓口である「国連UNHCR協会」職員、小野由香子さん。2007年、初めてアフリカの難民キャンプを訪ねた。「UNHCRの支援のおかげで私たちは安心して暮らすことができる」。そう話す女性の笑顔に触れ、自らの活動が難民支援の現場につながっていることを実感できたという。「いま、学生時代から思い続けてきた国際協力の仕事ができることに喜びを感じています」と語る。

（取材／国際学部3年・中村真惟、教育学部4年・君島泰、農学部3年・生沼昂子）

■同じ地球に住む人間として

「難民の人たちも私たちと何も変わらない同じ人間。故郷を追われ、難民という状態を強いられるという不幸があるとすれば、同じ地球に住む人間として手を差し伸べることは、ごくふつうのことではないか。難民問題は遠い世界の出来事ではなく、自分たちの生活が世界の問題につながっているのを感じてほしい」。ウガンダとタンザニアの難民キャンプを訪ね、小野さんは、そう思いを強くしたという。

国連UNHCR協会によると、戦争や迫害で故郷を追われ、国際社会からの助けを必要としている難民・避難民は、世界で4000万人近くにのぼり、避難生活が20年以上に及ぶこともある。小野さんは、いま、個人の



避難生活を送る子どもたち（2007年11月・小野さん撮影）

方々に募金を呼びかける部署に所属し、継続的な募金方法「毎月倶楽部」への参加協力を力を注ぐ。例えば毎月1500円の寄付を1年間続ければ、厳しい自然環境の中、家族が身を寄せ合えるテント1張を難民キャンプに贈ることができる。「月1500円は学生にとっては大きい金額だと思います。私もそうでした。でも、もし友だちと1回ごはんを食べる分を難民の人たちに寄せてくだされば、それが積み重なって、テントや子どもたちの教科書を買うことができます」。

緊急事態発生時にはメディアも注目し寄付も集まる。しかし、人々の関心は時間の経過とともに薄れていく。「難民の人たちはすぐに自分の

故郷に帰れるわけではありません。故郷に平和と安全が戻る日まで、辛い避難生活が続きます。少しでも長く支援を続けていただければ、長期の資金計画が必要な学校教育なども安定して進めることができます」。

■幸せはいろいろなかたちで日々の生活にある

小学生のときに湾岸戦争が起きた。原油が流失し海の生物が油まみれになった映像が毎日テレビで放映された。「自然豊かな秋田の子どもでしたから、生き物が悲惨な状況になることが許せませんでした。小学生なりに、何か自分にできないものかと思いました」。高校受験を控えた中学3年生の冬、阪神淡路大震災が発

生し、「人道支援」を強く意識するようになった。そして、第8代国連難民高等弁務官・緒方貞子氏の活躍。中学から高校の多感な時期に国連や国際協力、人道支援の問題に触れる機会がたくさんあった。それが「国立大学で初めて国際学部が設立された宇都宮大学を選ぶきっかけになった」という。

大学時代は、学業、サークル、アルバイトに「スケジュール帳がいっぱいになるほど忙しい毎日」を送った。視野を広げるため社会人とも積極的に交流した。印象に残る授業は「異文化間コミュニケーション」。言葉の壁を越えて、「世界の人とどうコミュニケーションをとればいいのか」を学んだ。卒論のテーマは「写真と



小野さん（中央）を囲んで国連UNHCR協会の会議室にて。（左から生沼、君島、中村）

幸せの関係。「幸せにはいろいろな定義があると思いますが、私は故郷家族の温もりがすごく好きです。人とのつながりや人の笑顔にも幸せを感じます。幸せはいろいろなかたちで日々の生活にあることを写真と結びつけてまとめました」。

卒業後の05年、愛知万博の会場で世界中の笑顔の写真を紹介する仕事に携わった。スラム街で生きる人たちの笑顔に勇気付けられるという経験もした。「学生時代に研究した、私たちの見えない幸せというものが、卒業後、仕事の中につながってきていると思っています」。

■みんなの力で世界を変えられる

大学卒業後、ウェブ制作会社やデザイン事務所などで働く。「すぐに人道支援機関に就職できるというわけではありません。NGOやNPOは即戦力を求めています。大学生の私には強みがありませんでした。まず、自分



学生時代。サークルの仲間たちと（2001年頃/前列右から3番目が小野さん）

の力を蓄えようと思いました」と話す。ウェブの制作は学生時代、独学で学んだ。インターネットというものが人々の生活の中に浸透し影響力を発揮しはじめた頃だった。「世界とつながっている感覚があって、インターネットが世界の問題を解決する大きな力になるかもしれない」と感じた。

結婚を機に、一時期、仕事から離れた。バイクを駆って日本中を旅した。「自分の知らない日本を見てみ

たかった」という。「心の洗濯もそろそろ終わりかな」という時期、国連UNHCR協会のホームページに出会う。「ウェブサイトの制作やオンラインによる寄付の呼びかけ、そこで自分がお役に立てるかもしれない」と思った。小野さんは、協会のドアをたたいた。08年にミャンマーで発生したサイクロン、中国四川省の大地震。オンラインによる支援呼びかけに、大きな力となった。「国際協力の場で働きたいという思いとウェブの技術を生かしたいという思いが重なったのが、いまの仕事です。学生時代にウェブに興味を持ったときから10年たちました。インターネットはソーシャルメディアとして、人々の生活になくてはならないものになりました。みんなの力で何かを変えられる、世界を変えられる、世界の問題にみんなが関わっていくことができる素地ができてきたと感じています」。

（文・ピオス編集部／撮影・木原悠聖）



プロフィール

■小野 由香子【おの・ゆかこ】

2002年、宇都宮大学国際学部国際文化学科卒。ウェブ制作会社、デザイン事務所勤務を経て、07年より「特定非営利活動法人国連UNHCR協会」ウェブ（オンライン）の寄付・広報を担当。現在は個人の支援者の方々から寄付を募る部門に所属。宇大の1年先輩の夫との間に1歳10ヶ月の長女がいる。

*国連UNHCR協会 URL:<http://www.japanforunhcr.org>

キャリア教育・就職支援センターによるサポート

自分らしい生き方・働き方を考え、描き、それに向かって「充実した学生生活を送りたい!」「自分に合った職業・進路を見つけたい!」そんな皆さんを下記の充実したプログラムでサポートしています。

- 1. キャリア教育授業**
1・2年生のうちから社会の状況に目を向けるとともに、自分や自分らしい生き方について考え、学生生活の目標を立て具体的な進路・職業選択ができる目を養います。
- 2. 進路・就職相談**
「将来について考えたい」「自分に向いている職業は?」など、教員、キャリアアドバイザー、センターの職員が相談に対応しています。
- 3. 全学プログラム行事**
キャリアや就職について考え、体験してもらうために、全学の学生を対象に「キャリアフェスティバル」や「学生プロジェクト支援事業」等を行っています。
- 4. インターンシップ**
企業や官公庁など、実際の職場で仕事を体験します。社員と同じような分野で働く中で、企業、仕事、働くことを理解するものです。
- 5. 就職ガイダンス・セミナー**
「エントリーシート講座」「面接対策講座」など、実際に就職活動を始める学生に役立つプログラムを行っています。
- 6. 就職情報の提供**
求人・セミナー情報はUU Career Navilに、公務員・教員等の募集案内、就職関連雑誌等はキャリア・カフェや図書館にあります。

[<http://www.career.utsunomiya-u.ac.jp>]



気軽に利用できる「キャリア・カフェ」

12月7・8日、1月18日~2月末まで週2回実施

いつでもなんでも相談所inキャリア・カフェ

就活が本格化してくる不安や疑問に、いつでもなんでも相談できるよう小規模の相談会を複数回行いました。



1月24日、2月10日

就活サポートフォーラム

JUSTが実際に行った自己分析の方法や自己分析を行って良かったことなど体験談を紹介。その後、先輩と一緒に「大学で頑張ったことを見つける」ことを中心に自己分析を行いました。



12月1日

就活スタート講座

就活の不安を解消し、就活に前向きに取り組むきっかけにもらうための企画。第1部は学部別、第2部は「就活を始めていない人」「女性の悩み」「地元就職希望」などテーマ別に、座談会形式で相談に応じました。



12月14~17日

なんでも相談室

学内合同企業説明会と同時に開催。抱えている不安や悩み、合同企業説明会に参加して生まれた疑問などに応えました。



Udai
Job hunting
Support
Team

JUSTeam
Job hunting dai support
宇大就活応援団

宇 都宮大学では、就職活動(就活)を終えた学生が後輩をサポートする内定者グループ「JUST(宇大就活応援団)」が活動しています。
JUSTは、08年のリーマンショックを契機として就職氷河期到来が懸念される中、内定者と触れ合う企画を増やしたいキャリア教育・就職支援センターと、自分の経験を伝えることで後輩の就活を支援したいと考えた有志の学生たちが設立しました。経験を踏まえた就職支援イベントを企画・実施することで、就活へのきっかけを作り、スムーズに活動できるようにすることを目的としています。JUSTとして活動する学生自身も、活動を通して実社会において必要となる積極性や協調性、コミュニケーション能力を養うことができます。
JUSTの活動は3年目を迎え、今年も厳しい就活を乗り越えた学生が後輩をサポートしています。



■より一層効果的な支援ができます
キャリア教育・就職支援センター
副センター長 末廣啓子教授



就活中の学生にとって1学年上の先輩は就活の悩みも近いところがあります。様々な経験をして内定を得た先輩から悩みを含めて話を聞ける効果は大きいと思います。先輩は、苦勞して内定を勝ち取った実体験を後輩に伝えたいという純粋な思いがあり、経験を伝えることで、内定者自身も経験を追体験することが出来ます。また、センターのスタッフも、JUSTの活動に主体的に関わっていくことで、学生との関係を築けていくことで、より一層効果的な支援ができると思っています。



■第2期生制作の就職応援ブック
就活体験記や実際に提出したエントリーシートも掲載されている

■JUSTの活動が役に立っています
JUST第1期生 森 友佑さん
【09年農学部卒業】 旅行業勤務



大学生活最後の年に、毎日変わらない生活をしていた私に新しい風を吹かせてくれたのがJUSTでした。新しい仲間とJUSTを結成し、就職支援イベントを企画・実施しました。それまで別々に学生生活を送っていたメンバーが一つのものを作り上げるので、様々な意見が出ましたが、そこでお互いを尊重し合い、意見をまとめる力を身に付けることができました。その力はいま、接客業を行う上で大変役に立っています。
JUSTの後輩には、就活で体験した不安な気持ちや役に立った知識など、ノウハウ本には載っていない「生きた情報」を伝えることを宇大の伝統にして欲しいと思います。

■距離の近さがJUSTの魅力
野沢聡美さん【教育学部3年】



年の近いJUSTの先輩とは、雑談を交えて話しながら自然に打ち解けていくことができます。自己分析の生かし方が知りたくて、先輩と一緒に自己分析をするイベントに参加しました。そこで学んだことを早速エントリーシートに生かすことができました。

■先輩から生の情報が聞ける
東海林梨奈さん【国際学部3年】



サークルやアルバイト先に1学年上の先輩がいないので、就活の様子が聞きたいと思い、JUSTのイベントに参加しています。親しみやすさ、話しやすいさに加えて、就活を終えたばかりの先輩から経験を踏まえたアドバイスが受けられることが魅力です。

■就活を振り返ることができた
JUST第3期生 久保麻衣子さん
【国際学部4年】内定先: 銀行



JUSTの活動で後輩の悩みを聞いたり、体験を伝えたりする中で、自分の就活やなぜこの会社を選んだのか思い返すことができました。それは、間もなく社会に出る私にとって大切なことでした。JUSTとして活動して良かったと思います。

■後輩の相談相手になりたい
JUST第3期生 野澤秀輔さん
【国際学部4年】内定先: 化学メーカー



就活の時に「相談する人が必要」だと感じ、少しでも後輩の力になりたいと思い、JUSTに入りました。就活中の後輩のニーズはそれぞれ違いますが、個々のニーズに応え、参加者のためになる企画を実施していきたいと思っています。

防犯ボランティア 栃木まもろーが

若い力で地域の安全を守る
ヤングボランティア団体



宇都宮大学と宇都宮共和国の学生で組織する防犯ボランティア団体「栃木まもろーが」(代表・田中和豊さん(農学部3年))は、栃木県で初めて警察庁が活動を支援する「ヤングボランティア団体」に指定された。大学周辺や宇都宮市の繁華街などでの防犯パトロールや広報活動を実施する。地域関係者からは、「栃木まもろーが」の活動が若い世代の防犯意識の高まりにつながっていくことを期待されている。

宇都宮大学 地域貢献 REPORT 1



「栃木まもろーが」は、学生寮に入寮する宇大生44人と共和大生9人で組織され、昨年10月、栃木県警察本部で発足式が行われた。組織の名称は、「守ろう」と、鬼を意味する仏語「オーガ」を組み合わせた造語で、「鬼の力強さで栃木を守る」との意味が込められているという。栃木県警生活安全企画課によると、全国の防犯ボランティア団体は約4万3千団体で、加盟人数は約260万人。平均年齢60歳以上の団体が60%を占める。一方、20歳代以下が占める比率は1%にも満たない。自主防犯に意欲のある若い世代の積極的な参加が求められている状況の中、「栃木まもろーが」が結成された。1月下旬宇大峰キャンパスで、「栃木まもろーが」と宇都宮東警察署が合同で自転車盗難防止を呼びかける広報活動を実施した。東署管内の昨年の自転車盗認知件数は646件。宇大の学生が被害に遭ったのは約100件で全体の15%を占める。自転車通学の学生にチェーンロックや引ったくり防止カバーを配布し、「2重ロックをするよう」呼びかけた。



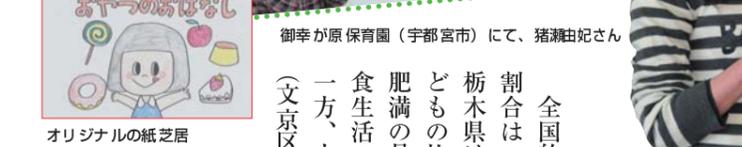
宇都宮東警察署と合同で自転車盗難防止を呼びかける

署が合同で自転車盗難防止を呼びかける広報活動を実施した。東署管内の昨年の自転車盗認知件数は646件。宇大の学生が被害に遭ったのは約100件で全体の15%を占める。自転車通学の学生にチェーンロックや引ったくり防止カバーを配布し、「2重ロックをするよう」呼びかけた。

「栃木まもろーが」の活動をバックアップする栃木県警生活安全企画課の押野憲一警視は「大学生は卒業後、故郷に帰る、あるいは社会人として新しい場所で生活するようになります。学生時代の経験を生かして新しい場所でも防犯組織を立ち上げてもらえたら」と大学生の活動に期待する。

宇都宮大学 地域貢献 REPORT 2

宇大オリジナルの食育教材 紙芝居作成と読み聞かせ



教育学部の大森玲子准教授の研究室では、日常の生活習慣が身につく始める幼少期の子どもたちを対象にした宇大オリジナルの食育教材の制作を進めている。栃木県は生活習慣病につながる肥満者の割合が全国的にも高いため、紙芝居を教材にして、望ましい食生活を身につけてもらおうという試み。実際に、学生が就学前施設で読み聞かせをし、幼児たちの反応や施設職員の意見を取り入れながら完成させた紙芝居を、希望施設に提供する。

全国的には肥満者(30歳以上)の割合は3人に1人であるのに対し、栃木県は2人に1人という状況。子どもの比率も全国平均に比べて高く、肥満の是正を含めた生活習慣、特に食生活の改善が必要とされている。一方、大森研究室の調査で、東京都(文京区)に比べ栃木県(宇都宮市)は、おやつにスナック菓子やジュース類を多く摂取する傾向にあることが分かった。大森准教授は「大人と違い、子どもにとってお

幼児・児童期の子どもを対象に、「紙芝居」で望ましい食習慣を指導

教育学部 大森研究室



大森玲子准教授

やつは栄養補給の役割を担っており、1回の食事として捉えなければならぬ。おやつは意義を普及啓発することが必要」と指摘し、「素直で何でも吸収する子どもを対象に食育指導をすることで情報が親にも伝わり、家庭の食習慣が改善されることも期待できる」と話す。

紙芝居は、研究室所属の学生が内容を考え、絵も自ら描いた。実際に県内各地の保育園、幼稚園に出向き、子どもたちに読み聞かせをし、施設教員の感想・意見を聴いた。宇都宮市の御幸が原保育園の田崎英子園長は「紙芝居で、学生から(加工食品の)原料は何かという問いかけが園児にありました。チーズや豆腐などいろいろある中で、お餅がお米からできていることはみんな分かりました。それは、先日保育園で餅つきをしたばかりだから。そういう体験が大事だということに改めて感じました」と話す。



さくらが丘幼稚園(宇都宮市)にて

6施設で紙芝居を担当した猪瀬由妃さん(4年)は「紙芝居の後の給食に(紙芝居にもあった)納豆が出て『先生、納豆は大豆からできているんですよ』と子どもに話しかけられたことがありました。紙芝居の成果があったのかなと思っとうれしかったです。紙芝居はあくまで導入で、給食のような日ごろの生活の中で教えていくことが大切だと思います」と話す。

完成した紙芝居は、「おやつのおはなし(間食編)」「なにからできています(食品加工編)」「えいようくらま(栄養編)」の3作品。

大森准教授は「子どもは紙芝居をふだんの遊びの一つとして捉えます。強制的に教え込むのではなく、楽しみながら何となく食への興味関心が高められれば、それで大成功だと思います。将来、生活習慣病を発症させないために、子どもたちの食生活に大人が目配りして、望ましい方向につなげていくことが大切」と話す。

同研究室は、今後、食への興味関心を引き出させる食育教材として「食物の一生」をテーマにした写真絵本図鑑の作成を計画している。



左から田中代表、佐々木さん、高松警部補、押野警視

同じく、高松和哉警部補は「地域住民は、若い人が防犯活動に参加することを心強く感じています。寮の伝統として活動を後輩に引き継いでいたきたい。『栃木まもろーが』の活動をきっかけに若い人の防犯ボランティアへの参加が増えてもらえたらと思っています」と話す。

「栃木まもろーが」の中心メンバーの佐々木雅哉さん(工学部3年)は「学生だからこそできる活動が求められている。そういうものを見つけて活動をしていきたい」と話す。

田中和豊代表は「寮生は、地域に住む方々にいろいろお世話になっているので、この活動を通して恩返しできればと思う。きれいな環境の場所では犯罪も起きにくいと思うので、防犯のほかに美化活動ができればと考えています」と話している。

Welcome to 研究室 & ゼミ

動物育種繁殖学研究室

名前から推察されるように、動物育種学と動物繁殖学が合体した研究室です。吉澤緑、福井えみ子、松本浩道の教員3名が博士課程2名、修士課程4名、4年生6名、3年生10名の院生、学部生とともに、マウスやウシ、野生動物の遺伝子や卵子、精子、胚を対象に、分子生物学や生殖工学、免疫組織化学などの手法を用いて、研究に勤しんでいます。

【農学部】
動物育種繁殖学研究室



● 学生から

大学入学時から動物に関係することを学びたいと考え、講義を受けていました。3年次に「動物繁殖学実験」を受講し、マウスの体外受精実験を行った時に、「私はこの分野を研究したい」と感じました。生殖の分野は家畜に限らず、人間にも非常に関わりのあるものであると感じます。実際に研究を始め、講義だけではわからないことがたくさんあることを知りました。この研究室のメンバーの研究内容やキャラクターは様々ですが、実験やプライベートのことなど、何でも相談し合えるような非常に仲の良い、良い雰囲気の研究室だと思います。実験は決して楽なものではありませんが、研究室のメンバーにいつも支えられ、楽しい研究生活を送っています。

農学部生物生産科学科4年 進藤 歩美

私たちの研究室では、家畜あるいは実験動物の生殖や遺伝に関わる研究を行っています。目の当たりにする生命の力強さやその神秘性に日々感動しています。私は学部生の時からこの研究室に所属していますが、この研究室の最大の魅力は、それぞれに異なる得意分野を持つ3人の先生方の指導のもと、自由で自立的な研究活動が行われている点にあると思います。特に、先生方が学生の



「やりたい」という気持ちを何よりも優先してくださるので、短期の海外留学など、本人のやる気次第で何事にもチャレンジできる環境が整っていると言えます。また不妊治療に従事する胚培養士の方々が博士課程院生として在籍するなど、農学部でありながら医療との関わりを身近に感じ、新しい学問の流れに興味深く感じています。

大学院農学研究科生物生産学専攻2年 秋田 望

● 教員から

本研究室は、動物育種学と動物繁殖学の2領域を担当し、教員3名(吉澤緑、福井えみ子、松本浩道)は、動物繁殖学、動物遺伝学、実験動物学などの科目



を担当しつつ、各専門領域の研究を大学院生(博士課程2名、修士課程4名)、学部4、3年生(16名)とともに進めています。最近2領域のコラボレーション、「マーカーアシスト選抜と先端生殖技術を利用したデザイナーズ家畜の生産」をテーマに文部科学省から研究費(基盤研究B)を受け、栃木県畜産試験場、同酪農試験場と共同研究を行っています。これは遺伝子組成の明らかな雌ウシからの卵子と遺伝子組成既知の精液を用いた体外受精により、経済形質や受胎率に関する遺伝子組成をデザインされた胚を作出、受胎雌に移植し子ウシを得ようというもので、現在3頭の誕生が待たれています。

農学部教授 吉澤 緑

Welcome to 授業



【工学部】
分析化学基礎・演習

分析化学基礎・演習

分析化学基礎では、水の中にいろいろな分子・イオンが溶けた場合、分子・イオンが互いに反応して、最終的に各成分がどのような濃度となるかを見積もることができるように、酸塩基平衡、錯生成平衡および酸化還元平衡を取り上げ、定量的に解説します。続いて行われる分析化学演習では、授業の内容を習熟するために、演習問題(難易度に応じて、基本・発展・実力に分けられています)を解きます。

● 教員から

工学部応用化学科では、必ず身につけるべき専門の基礎を分析化学、無機化学、物理化学、有機化学、化学工学の5つの基礎科目に分けて学ぶカリキュラムとなっています。それぞれの基礎科目には演習を組み合わせています。また、これらの基礎科目の多くの部分は必修の「応用化学実験Ⅰ～Ⅲ」で体験する実験の内容とも密接な関係があります。

スポーツでも音楽でも本当に楽しもうとするためには、基礎的な技術の習得が必要です。化学だって同じです。本格的な化学を学ぶためには、基礎を積み上げることが必要なのですが、大学受験のための化学を化学だと思って勉強してきた1年生の多くは、本格的な化学の基礎との出会いに戸惑うようです。でも、学年進行とともに化学の基礎が身につくにつれて、それらが互いに密接に関連(連携)し合っていることが自然と理解できるようになります。スポーツで言えば、ゲームが組み立てられるレベルといったところでしょうか。

「分析化学基礎」は1年生の後期に開講されます。この授業では、水溶液中での化学平衡(酸塩基、錯生成、酸化還元)を扱います。これらは、高校の化学でも取り

扱うので、1年生にも比較的なじみやすい授業のようです。授業では実験を行うための知識として自らが平衡計算をできるよ



になることを目指しています。

大学院工学研究科准教授 上原 伸夫

● TA(teaching assistant)から

9月に指導教員の先生から依頼があり、TA(teaching assistant)を担当することになりました。4年前の学部1年生の頃は、板書ばかりの授業で、進むスピードも速いことから、ノートをとることで精一杯でした。しかし、いざTAとして教える立場になってみると、どんな質問がきてもいいように対応しておかなくてはなりません。そこで、事前の準備を通して授業内容を理解するなど、これまでとは違った形で授業に関わるようになりました。そうすることで、新しい発見をすることもあり、さらに分析化学の楽しさが見つかるようになりました。



大学院工学研究科物質環境化学専攻1年 小川 陽

● 学生から

この授業では、高校時代には公式としてしか教えてもらえなかったことについて、詳しく理論や原理を学習しています。新しい概念や規則は難しいものばかりですが、理論を理解することで新しい世界が見えてくるようで、ますます化学が好きになりました。この授業をはじめとして、今学習している基礎的なことが2年生以降そして社会に出てからどのように役に立つのか、ワクワクしています。

工学部応用化学科1年 萩元 祥史

研究 Keyword

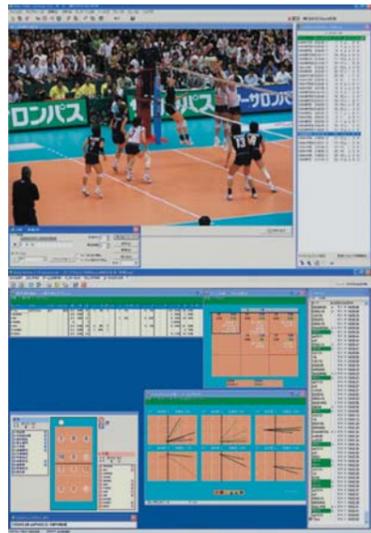
スポーツが持つ地域貢献の可能性…。

宇都宮大学教育学部教授 黒後 洋

マイフィールドワーク

教育学部に赴任して20年、学生とバレーボールと自分を無骨に磨いてきました。現在はバレーボールのコーチング・ゲーム分析と地域連携活動を中心にフィールドワークを行っています。スポーツ科学とコーチング、この領域は実に複合的な素地を持ちます。コーチングに必要なスポーツ心理学、チーム運営に必要なスポーツ経営学、選手をサポートするスポーツ医学等々は、それぞれに体系化されスポーツ科学の体を成しています。

TV中継でサッカーやバレーボールの試合をよく目にすると思います。最近のルール変更やボールの進化はシュートやサーブに大きな技術革新をもたらし、ゲームそのものを変容させました。こうした変化は、集積された膨大なゲーム情報から客観的に分析され、新戦術と研究（スカウティング）の検証を繰り返しながらその時代を特徴づけていきます。私が専門としているバレーボール



FIVB世界選手権のスカウティング風景

ルの世界でも、最新ではアナリストからの情報が、監督の手にあるiPad（on time）で配信され、情報が共有されるようになりました。今や構成されるようになりました。今や戦術分析や情報収集はチームやコーチングにとってスタンダードな位置づけに変化しました。現在は学生とともに、ゲーム分析技術の再構成やコーチングを中心に実際のゲームの中で悪戦苦闘しています。

学生もまた…。

関東大学バレーボール連盟に所属する大学は男女約230チーム、それぞれ1〜13部に分かれ春4・5月、秋9・10月のリーグ戦を戦います。昨年悲願の1部昇格を果たしたものの

多くの学生が教育学部に所属しているバレー部の役割は時代とともに変化してきました。独自のチーム強化から、地域貢献への転換です。現在は教員や指導者を志す学生と、地域の総合型スポーツクラブ（SC）の企画や運営を「インターシップ」というキーワードで繋いでいます。チーム強化と地域貢献、一見迂遠に見える取り組みも、その姿勢に曇りがなければ決して回り道ではなく、むしろ教育的な相乗効果が高いことをこの数年で実感しています。子どもたちとともに遊び、笑い、感じ、ともに学ぶ…。教員や指導者としての大切な素養（人間力）は、こうし



教育学部教授 黒後 洋

PROFILE

筑波大学体育専門学群卒業、筑波大学大学院修士課程体育研究科修了
FIVB(国際バレーボール連盟)公認コーチ、日本体育協会公認コーチ、宇都宮大学バレーボール部監督



関東甲信越大学体育大会優勝の男子バレーボール部

たフィールドからこそ培われていくことが多いのではないのでしょうか。課外活動の意義が再考されている中、スポーツを通して、どのような地域貢献と教育が可能であるのか？その答えを真摯に問い続ける限り、我がバレー部もまた一歩前進できるはずであると考えます。

学生ボランティアの可能性…。

地域活性化や地域教育力の醸成をもたらす、国から表彰される活動に成長しました。しかし、こうした地域の要請に対し、学生の供給が追いつかない実情もあります。アルバイト全盛の中、ボランティアの意義を説くことは実に難しい時代ですが、その「入り口」がわからず立ち止まっている学生も多いのではないのでしょうか。こうした学生たちに情報を提供し、体験する場をマネジメントするのも我々の役割と考えています。今後は、運営それ自体を学生と共／協働する視点や、そうした学生スタッフの教育・育成等が必要になってくるでしょう。地域教育力の再生が叫ばれる昨今、学生は地域の一員であり、大学とともに地域で育てて頂くことも大切で、スポーツを通して学生との「共／協働」に向けて、今後も地域との連携を深めていきたいと考えています。

総合型SCは、子どもたちの体力低下や運動離れの世相を反映し、スポーツの「場」作りとして国の支援により全国で設立されてきました。宇都宮市でも2014年にはすべての中学校25区に創設を予定しています。現在連携を進めている「友遊いずみクラブ」は設立7年を迎え、泉が丘小学校を拠点とした会員数約1500名の総合型SCです。小学生のフットサルやソフトバレーボールの活動を中心に連携を進めていますが、スポーツを通してこうした活動は、地



学生と友遊いずみクラブの子どもたち

バレーを通して、いろいろな人とつながりを持つことができた

私の学生時代

高校時代は全国大会出場という実績ありませんでしたが、跳躍力や俊敏性などバレーボールに必要な身体能力を認められ、プロ野球で言えばドラフト外の育成選手のようなかたちで、筑波大学に推薦入学することができました。

大学時代はバレーがすべてでした。朝の練習、授業を受けた後、夕方から夜9時まで練習。寮に帰り食べて寝るだけの生活。土・日曜は東京で試合がありました。いわゆるキャンパスライフとはほど遠い学生時代でした。



ただ、夏休みや年末年始の休暇には、旅に出ました。全国から集まって来ているバレー部の仲間の帰省先をよく訪ねました。実家に泊めてもらって周辺を観光したり、仲間の出身高校へ行ってバ

レーを教えたりして過ごしました。4年のときにインカレで優勝しました。周りには学生で全日本の選手もいましたし、国内トップレベルの実業団チームとの合同合宿、大学に研修に来ていた世界各国のバレー指導者との交流など、いい経験になりました。

私の身長はトップレベルのチームでは一番低い185cmで、選手として活躍するには限界があることを感じとり、コーチングを学ぶため大学院に進みました。筑波は、当時としては珍しいデータバレーを取り入れていましたが、そういう先進的な環境に身を置いたことが、いまの研究につながっていると思います。

妻は、大学の同級生で女子バレー部に所属していました。娘たちも、次女は昨夏の全日本小学生選手権に、長女は今年正月の全日本高等学校選手権（春高バレー）に出場しました。東京に応援に行ったとき、高校バレーの指導者として全国から集まって来ている大学時代の仲間たちと再会、同窓会のような楽しい正月を過ごすことができました。

【黒後 洋】

My Campus Life



2010関東大学リーグ戦リーフレット

味、香り、健康指標を表示した

清酒ラベルを考案

農学部の齋藤高弘教授が、宇都宮酒造（四季桜）、栃木県産業技術センター、毒島建築設計室と共同で、今までにない新しい「清酒の品質表示ラベル」を考案した。科学的裏付けをもとに、中身の情報を消費者に伝えることができるよう、商品の味や香りに関し9つの観点から数値化してグラフで表示。また生活習慣病などの予防の目安となる健康指標「抗酸化指標（ORAC値）」も記載した。ORAC値を表示した清酒販売は国内で初めて。



化指標（ORAC値）」も記載した。ORAC値を表示した清酒販売は国内で初めて。

栃木県南地域地場産業振興センターと

産学官連携推進に係る協定を締結

本学と栃木県南地域地場産業振興センターは、12月14日に産学官連携推進に係る協定を結んだ。本学と地場産業振興センターが相互に緊密な情報交換等を行い、互いの強みの相乗効果が発揮された活動成果を地域社会に還元することにより、産学官連携を推進し、もって中小企業等及び地域社会の発展に貢献することを目指している。今後、県南地域における中小企業等との更なる連携活動が期待される。



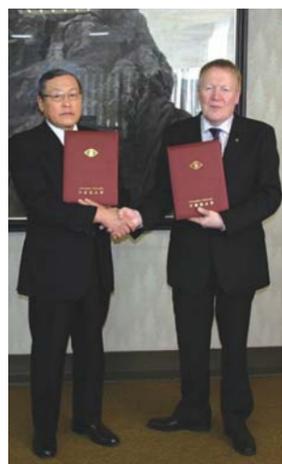
超微細「光源」の開発に成功

工学研究科・オプティクス教育研究センターの東口武史准教授の研究グループが、パソコンなど電子機器に使われる半導体の高性能化につながる超微細「光源」の開発に成功した。半導体製造では、光の波長が短いほど高密度・高性能の製品を製造することができる。次世代半導体の製造には13.5ナノメートル（ナノは10億分の1）の波長光源が使われるが、今回開発した光源は

6.5～6.7ナノメートルと半分までに微細化。次世代半導体のさらに先を見据えた研究として注目される。



東フィンランド大学と学位相互取得で連携



本学と東フィンランド大学は、1月20日に双方の学位を取得できる「ダブルディグリープログラム」に関する覚書を締結した。短期間で複数の大学から学位を取得できる可能性がある博士課程のダブルディグリープログラムは、日本でも先駆的な事例で、本学大学院工学研究科博士後期課程と東フィンランド大学自然及び森林科学部・研究科との間で実施する。東フィンランド大学は、4つの学部からなる国内で第4番目の規模であり、フィンランドを先導する国際的大学の一つ。今後、本学との活発な交流が期待される。

平成22年度前期学生表彰

学業成績・学術研究活動・課外活動・社会活動等の分野において、特に顕著な業績を挙げた本学学生7団体と14名を表彰した。個人の表彰者はホームページ。

URL:<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/common/sysfile/topics/ID00000164binary1.pdf>



団体名	大会名	成績
バレーボール部（女子）	関東大学春季2部リーグ戦（女子）	優勝
バレーボール部（男子）	第59回関東甲信越大学体育大会	準優勝
剣道部（男子）		優勝
バドミントン部（女子）		準優勝
卓球部（女子）		第3位
弓道部（男子）		第3位
フライングディスク部	第21回日本学生アルティメット選手権大会東日本予選	準優勝
	第21回日本学生アルティメット選手権大会	第4位

本学留学生がカラスの男女識別能力を証明

本学と東京農工大学の連合大学院博士課程に在籍するエチオピアの留学生ベザワーク(Bezawork Afework Bogale)さんが、農学部の杉田昭栄教授と青山真人助教の指導のもと「カラスが人間の男女を見分ける認知能力についての研究」を行い、ヨーロッパ動物行動学会で発表した。杉田教授によると、カラスが男女の顔を識別することが分かったのは世界



初。顔の輪郭や色の情報を基に、男女差を見分けている可能性が高いという。詳しい内容はアメリカ合衆国の科学誌『Behavioral Processes(Elsevier) 86(2011) 109-118』に掲載されている。

講堂を「峰ヶ丘講堂」と命名

峰キャンパスの講堂の正式名称が「峰ヶ丘講堂」に決定した。同講堂は、大正13年(1923)に宇都宮高等農林学校の講堂として建てられた。老朽化したため、同窓生・卒業生をはじめさまざまな方々からの援助により平成21年3月に改修された。名称は公募し、学内外からの応募93点の中から決定した。講堂は利用申請をすれば有料で利用できる(大学関係者、同窓会、近隣自治会は無料)。利用についての詳細はホームページ。



URL:<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/koudou/koudou.html>

100ギガヘルツの共振周波数を超える共振器を世界で初めて開発

工学研究科の清水隆志助教と古神義則准教授らの研究グループが、(株)川島製作所と共同で、100ギガヘルツ(ギガは10の9乗)の共振周波数を超える同軸共振器材料測定用空洞共振器を世界で初めて開発した。この共振器を用いることで、衝突防止用自動車レーダーへの応用が期待される76ギガヘルツ帯において高精度な材料定数評価が可能となり、開発に拍車がかかることが期待される。研究成果は、横浜で開催された「国際会議2010Asia-Pacific Microwave Conference」で発表された。



「宇大生国際連携シンポジウム2010」を開催

学生の国際的視野を広め国際的な舞台で活躍できる人材を養成することを目的とした「宇大生国際連携シンポジウム2010」を11月16日及び17日に開催した。実施にあたっては大学院生・学部生が教員のアドバイスを受けながら主体的な役割を果たした。国際舞台で活躍している農学部卒業生による「食・農事情」や「仕事の内容及び職場環境」等について講演や、「学生とアジア・世界の未来—活動の場を広げる価値—」をテーマに国内外から招いた教員、学生と本学学生らによるパネルディスカッションなどが行われた。



水浄化技術の研究が科学技術振興機構事業に採択

工学研究科の池田幸教授らの研究グループの「ナノテクノロジーとバイオテクノロジーの融合による革新的な水処理微生物制御技術の開発」が、科学技術振興機構(JST)CRESTの研究カテゴリー「環境・エネルギー」内の研究領域「持続可能な水利用を実現する革新的な技術とシステム」の平成22年度新規課題として採択された。研究期間は27年度末まで、微生物の特性を詳しく解明し、水処理能力の向上を目指す。



栃木県庁で記者発表

宇大検定問題

問1. 昭和24年の宇都宮大学発足時から平成22年9月までの卒業生・修了生の数は何名でしょう？

- A. 31,971名 B. 41,971名 C. 51,971名

問2. 宇都宮大学の体育系サークルの数は62ですが、文化系サークルの数はいくつでしょう？(平成22年7月現在)

- A. 48 B. 68 C. 88

問3. 保健管理センターが力を入れて行っていることは何でしょう？

- A. マッサージ B. 食生活指導 C. 禁煙支援



(解答は14ページ)

新入生へのアドバイス

学生アンケート 宇大生は今!



授業を一番前の席で受けるとモチベーションが上がります。
(国際・3年・沖縄県立那覇国際高校)

雨の日はバスが遅れることが多いので、時間に余裕を持って遅刻に注意してください。
(工・3年・茨城県立下妻第一高校)

1年生の前期試験は緊張したい焦りたいします。計画的に勉強しましょう。
(農・1年・私立武南高校)

徒歩・自転車通学なら、いろいろなルートを開拓しておくことで遅刻しにくくなるし、何かと楽しいのでおすすめです。
(農・4年・群馬工業高等専門学校)

大学に入る前に、自分の興味のある分野やそれに関連するニュースなどについて勉強しておくことで、大学に入ってから授業が選びやすいと思います。
(国際・2年・青森県立八戸東高校)

防犯はしっかりしましょう。また、困ったときの連絡先を覚えておいた方がいいです。
(教育・4年・岩手県立水沢高校)

食費を抑えるには自炊! ご飯を炊いて、おがきは学食で食べれば安く抑えられます。
(教育・2年・私立東京農業大学第二高校)

大学生活で、自分のやってみたいこと、興味のあることにむかむか挑戦していきましょう。
(農・2年・私立水城高校)

海外旅行は早いうちに行っておくべき! 世界が変わります。
(国際・3年・栃木県立栃木女子高校)

近所のスーパーの特売日を把握しておきましょう。
(農・2年・栃木県立宇都宮女子高校)

目標を持って生活しましょう! だらだら過ごるのはもったいない!
(工・3年・青森県立八戸高校)

サークルに入ると、他学部、他学科の友達ができ、交流の輪が広がります。
(教育・4年・栃木県立黒磯高校)



初めてアルバイトをする人は、バイト先で怒られて落ち込むかもしれませんが、それが後でとても役に立つと思います。頑張ってください。
(国際・3年・群馬県立前橋女子高校)

家計簿を付けましょう。大学生活は社会人になる前にお金の管理能力を付けるいい機会です。
(工・3年・山形県立新庄北高校)

学生だけではなく社会人と接することができるので、アルバイトはした方がいいと思います。社会人は経験も知識も豊富で、いろいろなことが学べます。
(教育・4年・栃木県立矢板東高校)

INFORMATION

オープンキャンパス (教育学部附属特別支援学校)

日時: 第1回 7月6日(水) 9:30~12:00
第2回 9月7日(水) 9:30~12:00
場所: 教育学部附属特別支援学校
内容: 小学部・中学部・高等部の授業参観、入学相談(個別)、校舎内外の施設設備の参観
※駐車場が満杯になった場合は、本校玄関前ロータリーにも停められます。お子様にもおいでいただけます。
○問い合わせ先: 教育学部附属特別支援学校
TEL: 028-621-3871

オープンキャンパス (全学)

日時: 7月24日(日) 9:30~
場所: 峰キャンパス(国際学部・教育学部・農学部) 陽東キャンパス(工学部)
内容: 模擬授業、実験体験、研究室・施設見学、個別入試相談、サークルデモンストレーション等
※詳細は随時ホームページに掲載します。
URL: <http://www.utsunomiya-u.ac.jp/admission/open.html>
○問い合わせ先: 企画広報部企画広報課 TEL: 028-649-8649



宇都宮大学基金 ~ご寄付のお願い~

平成20年3月、本学の財政基盤強化の一環として、「宇都宮大学基金」を創設しました。この基金では、①学生(外国人留学生を含む)・生徒・児童等に対する支援、②国際交流の支援、③教育研究活動等への助成、④キャンパスの環境整備・充実の4本柱を中心に支援いたします。
皆様からのご協力を仰ぎ、引き続き地域貢献に資する人材の育成や国内外の多様な要請にも応え得る人材の育成を目指してまいります。
皆様からのあたたかいご支援、ご協力をお願いいたします。
URL: <http://www.utsunomiya-u.ac.jp/kikin/index.html>
○問い合わせ先: 企画広報部企画広報課
TEL: 028-649-8177

平成22年度学位記授与式

日時: 3月24日(木) 10:30~
場所: 宇都宮市文化会館大ホール
○問い合わせ先: 学務部修学支援課 TEL: 028-649-5085



平成23年度入学式

日時: 4月7日(木) 10:00~
場所: 宇都宮市文化会館大ホール
○問い合わせ先: 学務部修学支援課
TEL: 028-649-5085



おいでよ! さくらフェスタ2011

日程: 4月9日(土)、10日(日)
場所: 陽東キャンパス(工学部)
内容: 桜の名所「陽東キャンパス」で、今年もイベント開催! ロボットや電気自動車等の研究成果展示、農学部附属農場の物産販売、ミニコンサートなど。お花見ついでにぜひ立ち寄りください。
URL: <http://www.utsunomiya-u.ac.jp/admission/sakurafesta.html>
○問い合わせ先: 工学部総務係 TEL: 028-689-6005



運動会 (教育学部附属特別支援学校)

日時: 6月11日(土) 9:20~14:20 雨天順延
場所: 教育学部附属特別支援学校 校庭
内容: 小学部児童、中学部・高等部生徒の演技等
※受付でプログラムをお受け取りください。
○問い合わせ先: 教育学部附属特別支援学校
TEL: 028-621-3871

ANSWER 宇大検定 解答

問1. C. 51,971名

本学の卒業生・修了生は51,971名におよびます。多くの方が社会の第一線で活躍しています。UUnowでも、OB・OGインタビューを掲載し、先輩の活躍をお伝えしています。バックナンバーはホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。
(URL: <http://www.utsunomiya-u.ac.jp/info/uunow/index.html>)

問2. B. 68

体育系・文化系合わせて130のサークルがあります。同じ趣味を持つ仲間が集まり、大会、大学祭、コンクールなど、年間を通して盛んに活動しています。サークルとその活動内容はホームページに掲載しています。
(URL: <http://www.utsunomiya-u.ac.jp/campuslife/club.html>)

問3. C. 禁煙支援

保健管理センターでは、禁煙したい学生に対して無料で禁煙をサポートしています。禁煙したい学生は、ぜひ相談しましょう。また、マッサージチェアでリラックスすることもできますし、「宇大生のためのおせっかいなマニュアルブック」を読めば、食生活についてもよく分かります。その他にも、学生の健康管理のため様々なサポートを行っています。

Circle pin-up

-サークル紹介- バドミントン部 (女子)

★第59回関東甲信越大学体育大会 準優勝!

私たちバドミントン部は、男女仲良く練習も一緒に行っています。これまであまり目立つことのなかった部活動なので、部の存在自体を知らない人も多いと思います。

女子部員は、私が入部する前は現役が1人しかいませんでした。そのような状況で今の2年生が4人も入部したので、奇跡だと思いました。そのおかげで女子も関東リーグに登録し、活動の場を広げることができました。

8月に開催された関東甲信越大学体育大会では、3年間出場した中で初めて決勝リーグに進出しました。決勝リーグでは男子も応援してくれて、それを力に粘り切り、初めて準優勝を飾ることができました。このような成績を修めることができたのも、大学関係者の支援や、顧問の田和先生、

部員の両親、友人などの理解とあたたかい応援があったからだと思います。この大会での反省を生かし、11月末に開催された北関東5大学選手権では、男女共に団体準優勝を果たしました。この大会は小規模ではありますが、我々部員にとっては大事な大会で、これを最後に3年生は引退します。

現在は1・2年生が更なる強いチームを作るために日々練習に励んでいます。今年は宇都宮で開催される大会もあり、より団結力を高めていくことでしょうか。そんな私たちバドミントン部を、これからもあたたかい目で見守っていただければと思います。興味のある方は気軽に体育館を覗きに来てください。

バドミントン部女子前主将 後藤 綾乃 (農学部3年)



UU now 第24号 ● 編集後記 ●

■ 編集後記

◇「OB,OG INTERVIEW」で取材をさせていただいた国連U N H C R協会の小野さんは笑顔のステキな方でした。その笑顔に癒やされると同時に、難民支援に対する情熱を聞き、どれだけの難民の方たちがこの情熱に支えられているのかと思うと、胸に熱い思いが込み上げてきました。

◇J U S Tは私がキャリア教育・就職支援センターで勤務していたときに誕生しました。「宇大の伝統になれば」と思っていました。就活は今後も楽しいです。就活は今後も厳しさを増すと思いますが、先輩の経験を共有し、一人でも多くの学生が自分の希望や考えに合った就職ができればと思います。

◇地域貢献REPORTで「栃木まもろーが」を取り上げました。代表の田中さん、メンバーの佐々木さんと県警本部に取材に行きましたが、緊張することなく明るく元気だったのが印象的でした。また、取材後にお礼と今後の意気込みのメールが届き、とても頼もしく感じました。これからも防犯活動を頑張ってください。

◇卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。キャンパスライフはいかがでしたか?宇大での経験を糧に、社会で大きく羽ばたいてください。新入生の皆さん、宇大は教育だけでなく、サークルも充実しています。緑の多い恵まれた環境でキャンパスライフを謳歌してください。

編集委員 長嶋奈津美



■ 企画・編集

宇都宮大学 UU now 第24号編集委員

■ 編集委員

- | | |
|-------|---------|
| 金井田和親 | 国際学部1年 |
| 仲松ミゲル | 国際学部1年 |
| 中村 真惟 | 国際学部3年 |
| 君島 泰 | 教育学部4年 |
| 畑山 裕子 | 工学部4年 |
| 岩上 知可 | 農学部1年 |
| 野々村拓真 | 農学部2年 |
| 吉沼 晶子 | 農学部3年 |
| 池田 廉 | 工学研究科1年 |
| 米山 正文 | 国際学部教員 |
| 川原 誠司 | 教育学部教員 |
| 上原 伸夫 | 工学研究科教員 |
| 大澤 和敏 | 農学部教員 |
| 菊池 浩行 | 学生支援課職員 |
| 茂木 通徳 | 学術情報課職員 |
| 大森 恭子 | 企画広報課職員 |
| 青木 恭子 | 企画広報課職員 |
| 長嶋奈津美 | 企画広報課職員 |
| 高橋和廣 | 企画広報課職員 |

■ 発行責任者

渡邊 直樹

企画・広報担当

■ 編集協力

栃木文化社 ビオス編集室

■ 企画広報課では、みなさまの声をお待ちしております。ご意見・ご要望などをお寄せ下さい。

【宛先】宇都宮大学 企画広報課
〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350
TEL 028-649-8649 FAX 028-649-5026
URL : <http://www.utsunomiya-u.ac.jp>
E-mail : plan@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp



宇都宮大学
携帯サイトへGO!

キャンパス みどころ MAP 峰キャンパス

INFORMATION

※★はのんびり過ごしたり、時間が空いた時に学生が利用できる場所です。

1) 天体観測共用システム TEL028-649-5242 (教育学部総務課)

- 口径40センチ反射望遠鏡や3種類の副鏡からなる天体観測望遠鏡、および簡易プラネタリウム装置が設置されており、教育研究や観望会等の活動をすすめています。
- 天体ドーム、観測室ともに見学可能で、望遠鏡による観望は学内者の同行が必要です。見学を希望する場合は、お問い合わせください。



天体観測望遠鏡

2) 教育学部附属教育実践総合センター TEL028-649-5388

- 教育学部門ではICT (情報通信技術) で学習効果の向上を目指し、教育臨床部門は子供の健やかな成長にアプローチしています。地域連携部門は学部と学校をつなぐために元気になるようとしており、教職実践部門は教職実践の活動を担っています。
- 見学を希望する場合は、お問い合わせください。

3) 複合施設・学務部

- 学務部事務室 (修学支援課、学生支援課、留学生・国際交流課、入試課)、コンビニ (ミニストップ)、郵便局が入っています。
- コンビニ (ミニストップ)、郵便局はどなたでもご利用いただけます。

4) 生涯学習教育研究センター TEL028-649-5144

- 生涯学習についての研究・開発、実践を行う指導者の養成や、教育ニーズの高度化・多様化に応じた公開講座の開設・実施および、広く社会人向けの学習機会の提供を行っています。

5) 留学生センター TEL028-649-5099 (留学生・国際交流課)

- 留学生に関する日本語授業の開講や修学生活および海外留学についての指導・助言を行います。

★1) 国際交流スペース：留学生との交流の場として利用できます。見学・利用を希望する場合は、お問い合わせください。

6) 国際学部附属多文化共生センター TEL028-649-5228

- 地域社会や自治体、市民団体などと協力して外国人やそのコミュニティとのネットワーク作りや貢献しているほか、グローバル化に関する課題に関する研究や実践的活動を行います。
- 外国人児童生徒やグローバル教育関連の文献、資料等の閲覧ができます。

★2) コモンルーム (共通教育B棟2階)：国際学部学生および教職員が共同で使用するため設置され、利用者の知的交流や親睦、相互学習等で主に活用されます。開室時間は平日8:50~16:30です。

7) 附属図書館 TEL028-649-5130 (学術情報課)

- 地域に開かれた知の拠点として、当館が教育研究のために収集し所蔵する貴重な学術情報資源を、地域の皆様の生涯学習を支援するために広く開放しています。
- 利用については、ホームページを詳しく案内しています。



アトリウム

★3) アトリウム

- 3階まで吹き抜けになっており、ゆったりとした空間です。昼休みには定期的アナログレコードコンサートも行われます。

8) 学生会館 TEL028-649-5097 (学生支援課)

- 1階には学生食堂 (430席)、購買 (図書・菓子・JR切符・電子辞書) など学生の胃袋と勉強を助ける重要な場所があります。また、2階のハイビジョンシアターで友達とプライベートシアターはいかがでしょうか？

★4) グリーンステージ

- 昼休みにはしばしばライブが行われ、大学生の雰囲気を盛り上げてくれます。お日さまの下で食べるお昼は格別です。



グリーンステージ

9) 総合メディア基盤センター峰分室

TEL028-649-5158

- 高性能なコンピューターネットワークを整備し、パソコンを配置しています。情報関連科目、外国語科目、専門科目の授業に活用されます。

★5) 峰地区教育用端末室 I・II：パソコンが設置されており、自習、レポート作成などに利用することができます。

★6) 学生控室 (国際学部E棟1階)：ソファとテーブルが置かれており、自由に使うことができます。

10) キャリア教育・就職支援センター TEL028-649-5104

- 自分らしい生き方・働き方を考え、描き、それに向かって「充実した大学生活を送りたい!」「自分に合った職業・進路を見つけたい!」そんな皆さんをサポートしています。

★7) キャリア・カフェ：ゆったりと就職情報を閲覧したり、友達と情報交換ができる「たまり場」的空間です…とにかく雰囲気を感じてください!

11) 基礎教育センター TEL028-649-5091 (修学支援課)

- 幅広い教養と豊かな人間性を養成する基礎教育の企画運営をしています。ことに、「浴びる英語」をテーマとした英語教育プログラム (E P U U) の運営に力を入れています。
- 見学を希望する場合は、お問い合わせください。

12) 保健管理センター TEL028-649-5123

- 宇都宮大学の学生と教職員の健康管理を行っています。学内者に対して簡単なけがの処置や体調不良時の休養、さらに医師や心理士が心身の健康に関する相談に応じます。

13) 雑草科学研究センター TEL028-649-5148

- 自然と人間の共生社会の創造や食糧問題と環境問題の解決を目的として、農耕地、森林および住環境空間における雑草のリスク予測・評価・回避に関する研究を行っています。
- 見学を希望する場合は、お問い合わせください。

★8) イチョウ並木

- 秋は紅葉がとてもキレイです!でも、落葉と銀杏には要注意!



イチョウ並木

14) 農学部附属里山科学センター

TEL028-649-8164

- 実際の里山を対象に教育研究を行い、その成果を地域に還元することを目的に活動しています。特に、鳥獣害対策、地域の小規模ビジネス、生物多様性の保全、伝統知識の再構築等に取り組んでいます。

★9) 学生控室 (農学部棟1階)：机や椅子はもちろん、パソコンも20台ほど設置されており、資料調査やレポートの作成を行うことができます。

★10) パソコン演習室 (農学部棟2階)：パソコンが40台以上設置されています。講義で使用していない時間帯には、資料調査やレポートの作成を行うことができます。

★11) フランス式庭園：「うつつのみや百景」に選ばれているフランス式庭園。季節によってその色を変えます。



フランス式庭園

15) UUプラザ TEL028-649-8649

- 宇都宮大学の新たな情報発信と交流活動の拠点のひとつになります。Information (大学情報)、Communication (交流) を活動の柱として、いろいろな人たちが集い、話し合うスペースを設けています。(2011年6月オープン予定)

16) まなびの森保育園 TEL028-635-4152

- 大学教職員が中心となって設立した社会福祉法人「峰園会」が運営する保育園です。園児の定員は90名、宇都宮大学や地域の方々との協力を得て質の高い保育を目指しています。
- 見学を希望する場合は、お問い合わせください。

17) バイオサイエンス教育研究センター TEL028-649-5527

- 環境調節実験棟とゲノムクス研究棟の2つの建物で構成され、前者は作物の実験や保存に利用され、後者は最先端のバイオサイエンス研究を安全に行うための設備が充実しています。
- 遺伝子導入生物を実際に見たり、普段見ることができない最先端の高額実験機器類や専任教員の研究内容に触れることができます。見学を希望する場合は、お問い合わせください。

★12) グリーンスペース：緑の芝生が広がり、スポーツなどを楽しめます。



グリーンスペース

18) UUサステナブルビル

- TEL028-649-5399 (農学部総務課)
- 再生可能エネルギーを利用して持続的な食糧生産を行うことができる近未来型の「農村」を想定した施設群です。いちご温室、LED植物工場、太陽光発電民家から構成されます。
- 「Eco-Farmer's House (エコファーマーズハウス)」、「Eco-Green House (エコグリーンハウス)」、「Plant Factory (植物工場)」が見学できます。見学を希望する場合は、お問い合わせください。



旧書庫

19) 旧書庫

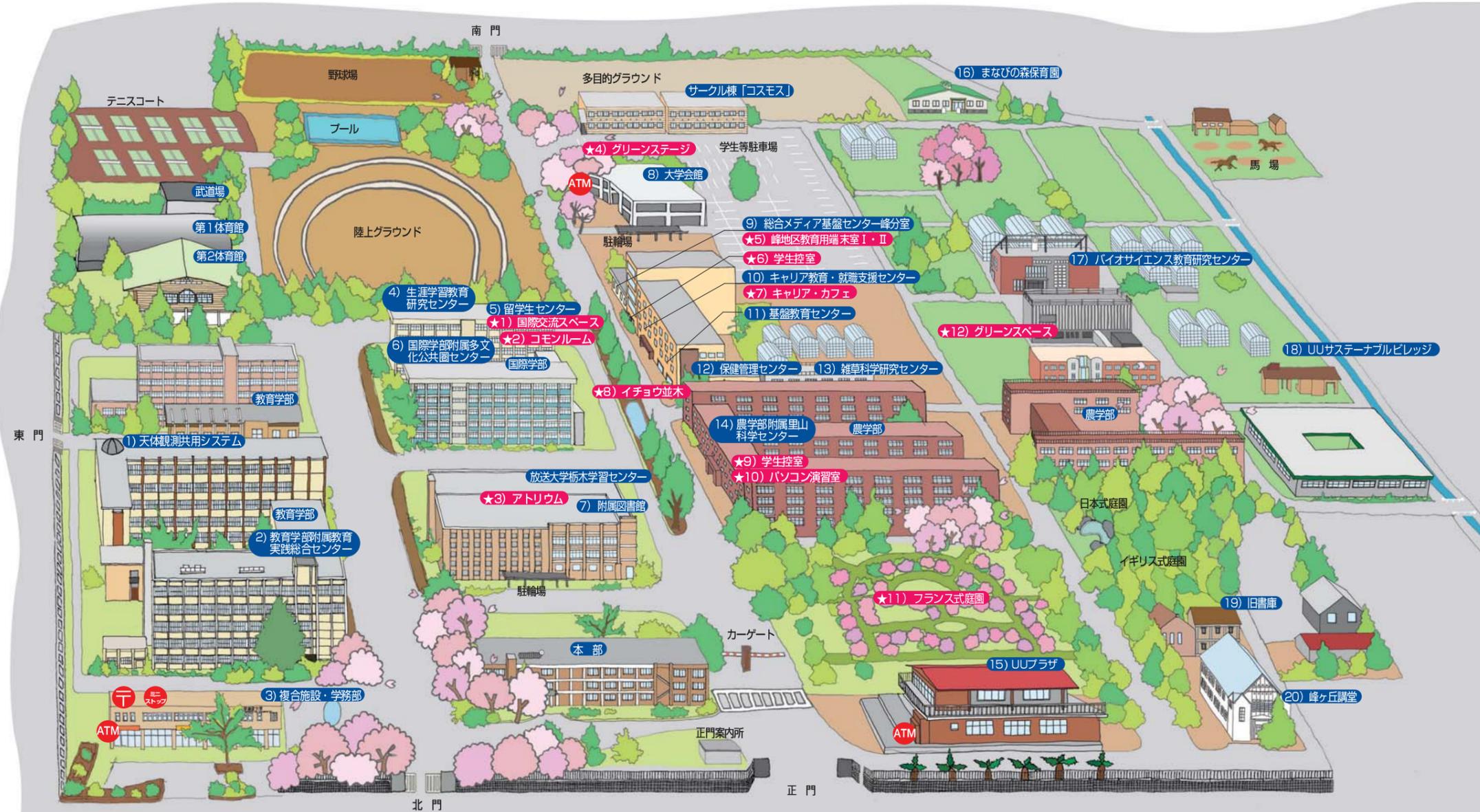
- 大谷石造りの建物2棟は戦前から図書館用の閲覧書庫として使われていました。近くにあった当時の図書館はなくなっています。現在は、耐震性・耐久性などについて不安があるため使われていません。



峰ヶ丘講堂

20) 峰ヶ丘講堂 TEL028-649-8647

- 大正13年に、宇都宮高等農林学校 (宇都宮大学農学部の前身) の講堂として建築された木造2階建。平成21年に改修され、「峰ヶ丘講堂」という名称のもと、全学のシンボリック建物となっています。
- 建物内の見学を希望する場合は、お問い合わせください。



キャンパス みどころ MAP

陽東キャンパス

INFORMATION

※★はのんびり過ごしたり、時間が空いた時に学生が利用できる場所です。



学際先端システム学専攻棟 及およびアカデミア・ホール

★1) 桜の木のある広場：春先は桜が見事で、地域の方も学生も花見を楽しみ、にぎわいます。



桜の木のある広場

★2) 学生控室（3号館1階、3階）：机と椅子があり、学生が自由に利用できます。開室時間は通常、平日8:30~18:00ですが、試験期間中は24時間開放になります。

★3) 学生メディアルームⅡ（1号館2階）：パソコンが32台設置されています。工学部学生係で登録すれば、利用することができます。

1) 留学生センター工学部分室 TEL028-649-5099（留学生・国際交流課）
■主に陽東地区の留学生に関する諸手続や情報を提供しています。開室時間は、月曜日の11:00~13:30、水・金曜日の13:30~16:30です。

★4) 学生メディアルームⅠ（2号館2階）：パソコンが10台設置されています。工学部学生係で登録をすれば、利用することができます。

★5) 枝垂桜：保健管理センター分室前にキレイな枝垂桜があり、4月中旬頃に見頃を迎えます。



枝垂桜

- 2) 保健管理センター分室 TEL028-689-6348
■宇都宮大学の学生と教職員の健康管理を行っています。学内者に対して簡単なけがの処置や体調不良時の休養、さらに医師や心理士が心身の健康に関する相談に応じます。
- 3) ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー TEL028-689-6316
■独自の研究開発を推進するとともに、大学院生を中心として若手研究者の創造性と自由な発想を涵養する教育プログラムを展開して、高度な専門職業能力を持つ有為な人材の育成を行っています。
■見学を希望する場合は、お問い合わせください。
- 4) オプティクス教育研究センター TEL028-689-7074
■オプティクスとは光に関する学問です。本施設には講義室、実験室、産学連携実験室などがあり、光学基礎実験装置から世界最先端の研究設備まで整備されています。
■1階の玄関ホールには、「レンズのカットモデル」や「レンズ加工までの流れ」など5点が展示されており、随時見学可能です。また、フェムト秒レーザーやホログラフィー装置などの世界最先端の研究設備も見学することができます。見学を希望する場合は、お問い合わせください。



建物の東側の壁がオプティカルウォール（ステンレス製の板）で覆われており風によりキラキラ光ります。

- 5) 地域共生研究開発センター TEL028-689-6316
■企業等と産学官連携に対する大学の窓口として、大学の研究成果を積極的に地域社会に発信し、企業団体等との共同研究・情報交流や企業等のニーズと大学の研究成果とのコーディネートを行い、産学官連携を推進して地域との共生を図っています。
■見学を希望する場合は、お問い合わせください。

- 6) 知的財産センター TEL028-689-6324
■大学内に埋もれている研究成果の発掘と知的財産としての登録を促し、これらを地域に発信し、積極的な技術移転を推進して地域・社会の活性化を目指しています。また、大学の知的財産の管理、運用等を行っています。
- 7) 附属図書館分室 TEL028-689-6312
■地域に開かれた知の拠点として、当館が教育研究のために収集し所蔵する貴重な学術情報資源を、地域の皆様の生涯学習を支えるために広く開放しています。
■利用については、ホームページで詳しく案内しています。
URL: <http://www.libutsuromiya-u.ac.jp/>
- 8) 工学部附属ものづくり創成工学センター TEL028-689-7070
■工学部および大学院工学研究科の全学生を対象として、ものづくり・創造性教育をするセンターです。インターンシップや本学OB技術者による講演も実施して、キャリア形成の支援も行っています。
■コンピューター上の設計データに基づいてレーザーで樹脂を固めて立体を作り出す光造形装置、レーザー光を用いて立体の形状をスキャンする3次元立体測定装置などを見ることができます。見学を希望する場合は、お問い合わせください。
- 9) 総合メディア基盤センター TEL028-689-6340
■高性能なコンピューターネットワークを整備し、パソコンを配置しています。情報関連科目、外国語科目、専門科目の授業に活用されます。
★6) 陽東地区教育用端末室・研究用端末室：パソコンが設置されており、自習、レポート作成などに利用することができます。

- 10) 石井会館 TEL028-649-5097（学生支援課）
■陽東キャンパスのお食事処、学生食堂は356席、購買では図書販売から旅行手配などを扱っています。
- 11) キャリア教育・就職支援センター分室 TEL028-649-5104
■石井会館の2階に陽東キャンパスにあるキャリア・カフェのミニ版と進路相談室があります。
★7) ミニキャリア・カフェ：就職情報の閲覧と学生相互の情報交換ができます。



陽東キャンパス北側に位置する「ベルモール（総合ショッピングセンター）」

